

ちっちゃいものくらぶ

うずら(さん)

先日新聞にこんな記事が掲載されていた。

松戸市の中学1年生の男の子が、夏休みの自由研究でうずらの卵の孵化に成功したというものだ。その子は県内の高校の生物部がうずらの卵の孵化実験をしているのをテレビで見て、自分でもやってみようと思いついたそうなんだ。



今やネットでは自動の孵卵器も販売しているそうだけど、それじゃ研究にならないということで、電気あんかを使って37~38℃の温度管理をしたんだって。7月に近所のスーパーで卵20個を買って試してみた。うち6個は電球にかざすと血管のようなものが見えてきたけど、その後成長はストップ。8月に全国一のうずら卵の生産地、愛知県産の卵で再度実験。20個のうち4個が6日目に動きを見せた。その後6時間おきに保温箇所を90度ずつ変える「転卵」の作業を家族総出で行った。(転卵をしないと卵と中の子がくっついちゃうらしい) 予定日の17日目になっても心配がないので、諦めかけていたけど、8月26日の夜にお父さんがリビングで段ボール箱の中から「ピヨピヨ」という鳴き声を聞いた。翌日昼にはもう1羽が孵ったそう。

昨年は愛知県の小学5年生の女の子も5~12月にかけて80個の卵で実験し、孵化に成功している。生後40日から卵も産むようになったそう。

スーパーで販売されてる卵は一応無精卵のはずだけど、うずらさんはオスとメスの区別が難しく、女の子の中にたまに男の子が混じって飼育されていることがあるみたいです。それでこういうことが起こるらしいです。

自分の生活時間を調整しながら、卵をひっくりかえして大切に見守り、新しい命が誕生する瞬間を見たらすごく感動しそうな気がします。でも、上記の愛知の女の子は「遊び半分で孵化させて、責任をもって育てない人が出てこないか」と心配しているそうです。小学生なのに立派だねえ！

野生のうずらさんは、2012年に環境省の絶滅危惧種に指定されました。飼育下では長寿だと10年くらい生きるそうです。ヒナのうちだけでなく、大人になっても大切に可愛がっていける自信のある人だけが、孵化実験を試みる資格があるんだよね。



卵の模様のお話

テレビでも何度か聞いたことがあるので、知ってる人も多いかもしれませんが…。

うずらさんの卵の模様は、同じ子が産む卵はみんな同じ模様なんだってさ。